

新1号棟地鎮祭

2月14日、長久手キャンパスに新しく建設される校舎「1号棟」に関する整備工事の着工に先立ち、地鎮祭が挙行されました。

建設予定地に設営された祭場には、小林素文理事長や島田修三学長を始めとする大学関係者、設計・監理・施行を担う企業の方々が参集しました。マスクの着用や手指の消毒、

ソーシャルディスタンスの確保など、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しての開催となり、厳粛な雰囲気のもと、すべての祭儀が滞りなく執り行われました。

2023年度の完成をめざす新1号棟には、現1号棟にある講義室、ゼミ室、研究室が移設され、さらに新たな関連施設なども設置される予定です。



建築・インテリアデザイン専攻 優秀作品展2022

2月22日から27日までの6日間、創造表現学部創造表現学科建築・インテリアデザイン専攻が「優秀作品展2022」を名古屋市民ギャラリー栄で開催しました。展示されたのは、学内で評価が高かった卒業プロジェクトの設計制作9点・論文6編と、1〜3年次の実習課題の優秀作品17点。文化施設、産業・商業施設、

学校などの設計図面・模型、建材や室内環境に関する論文など、学生の斬新なアイデアや緻密な考察が光る作品が並びました。会期中、建築家の増田信吾氏によるミニレクチャーと出展作品の審査も開催。学年をこえて刺激し合い、今後の学修・研究、設計制作や、卒業後の進路に活きる学びの場になりました。



創造表現学科建築・インテリアデザイン専攻4年 有働円香さん 大原彩友香さん インテリア産業協会の調査・研究活動助成に採択

創造表現学科建築・インテリアデザイン専攻4年の有働円香さんと大原彩友香さんの研究が、公益社団法人インテリア産業協会の調査・研究活動助成(令和3年度)に採択されました。選ばれた研究テーマは、「インテリアを変えることで人は変わる」。学生世代とシニア世代のインテリアの傾向を調査・比較・考察した

研究内容が認められました。さらに、研究内容は冊子としてまとめ製本し、協会のHPにも掲載されました。有働さんは「今回の研究でインテリアの奥深さを学びました。さらに究めていきたいです」と語り、大原さんは「インテリアを通して快適な暮らしを提案できる人をめざします」と決意を新たにしています。



高1社会科論文発表会

高1現代社会の授業では、3学期に論文発表会を行っています。自身の論文を客観的に俯瞰し、プレゼン能力の向上につながる論文発表会は、中3にとって

は、4人が選ばれ、さらにその中から投票により選ばれた代表者1人が、2月17日に中3生徒の前で発表しました。自分で関心のあるテーマを決定し、長い時間をかけて調査・研究した論文です。どの生徒も堂々たる発表でした。発表する側、聞く側の双方から真剣さが伝わってきました。



第76回高等学校入学式

4月6日の入学式当日は、暖かく清々しい晴天の一日となりました。校門下の桜の花、クラブ勧誘の声、音楽系クラブの演奏などで新たな門出を祝福することができました。

270人の新入生を迎えて谷口校長からは、「社会に実際に参加する前に、与えられた時間をしっかりと使って、豊かな知と精神を持つ人として次の時代を担う力をつけてください。」と、期待の言葉が述べられました。昨年同様の保護者1人までの入場制限があり、来賓の祝辞も省いた簡素な入学式でしたが、式後の教員紹介では、各教員の名前が呼び上げられる毎に新入生から爽やかな拍手が送られ、教員一同これからの教育活動に より一層励む決意を新たにいたしました。



フェアウェルコンサート

2月25日の5・6限に中学2年生によるフェアウェルコンサートを実施しました。フェアウェルコンサートとは中学3年生の卒業を祝う会のことです。本年度は感染症予防対策として舞台上の人数制限を設け、クラスを4〜5のグループに分けて様々なパフォーマンスを披露しました。3年生からの拍手や手拍子の

ある温かい雰囲気の中、演じた2年生は大きな達成感を得ることができました。コロナ禍により『舞台を人に見てもらおう』ことが現中学2年生にとつてはほとんどなかったため、良い経験ができたと思います。早くコロナ禍が終息し、一体感のあるフェアウェルコンサートができることを祈っています。



令和3年度 中学校卒業式

3月17日、愛知淑徳中学校第75回卒業証書授与式が本校大アリーナにて行われ、275人が卒業しました。

この2年間はコロナ禍にあり、卒業生から「2年生の林間研修や3年生の沖縄研修旅行に行くことができず、一度しかない学校生活が期待とかけ離れたものになってしまい、とても心残りです。思い出を置き去りに

したような気持ちです」と涙ながらに語られたことに胸が痛みました。と同時に、友人の大切さや成人年齢が18歳になることを前向きに受け止めていることも語られ、とても頼もしく感じました。

義務教育を無事に終え、新しく始まる高校生活のスタートを切る節目の式となりました。

